

平成24年度建設副産物実態調査結果（九州地方）について

～建設廃棄物再資源化・縮減率は2.9ポイント向上、建設発生土利用率は9.2ポイント向上（前回調査比）～

平成26年3月27日

九州地方建設副産物対策協議会

平成24年度に九州地方における建設工事から排出された建設副産物について、再資源化及び排出量等の調査結果をとりまとめましたので公表いたします。

●建設副産物実態調査とは

- ・全国の建設工事や再資源化施設等を対象に、建設副産物の発生量、再資源化状況及び最終処分量等の動向に関する実態を把握するための統計調査です。
- ・調査結果は建設リサイクルに関する諸施策の策定及びその効果の進捗状況の把握等に役立てています。

●調査結果の概要

1. 再資源化及び排出量等の動向

(1) 建設廃棄物

平成24年度の建設廃棄物の再資源化・縮減率は、96.3%と前回調査（平成20年度）より2.9ポイント向上しています。品目別にみると、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥で向上しています。特に建設汚泥につきましては、前回調査（平成20年度）より22.5ポイント向上しています。

【参考資料1-1参照】

また、平成24年度の建設廃棄物の排出量は、756万トンとなり、前回調査（平成20年度）より3.7%増加していますが、最終処分量は28万トンと前回調査（平成20年度）より41.7%減少しています。

【参考資料1-2参照】

(2) 建設発生土

平成24年度の利用土砂の建設発生土利用率は88.6%と前回調査（平成20年度）より9.2ポイント向上しています。

【参考資料1-1参照】

また、平成24年度の建設発生土の排出量は、1,957万m³となり、前回調査（平成20年度）より10.0%減少しています。

【参考資料1-2参照】

2. 「九州地方における建設リサイクル推進計画2010」の目標達成状況

アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設発生木材（再資源化率）、建設汚泥、建設廃棄物、建設発生土については平成24年度目標を達成していますが、全国の調査結果と同様に建設発生木材（再資源化・縮減率）、建設混合廃棄物（排出量）については平成24年度の目標を未達成です。

【参考資料1-1参照】

<問い合わせ先>

国土交通省 九州地方整備局 TEL：092-471-6331（代表） FAX：092-476-3465

企画部 技術管理課長 加治 賢祐（内線3311）、技術管理課長補佐 富ヶ原 隆一（内線3314）